

# ■ 調査概要

## 調査目的

共生社会の実現に向けて、パラリンピックおよび放送がどのように寄与することができるかが課題となっている。パラリンピック放送のあり方や課題を検討するためには、まず今現在のパラリンピック放送が視聴者にどのように見られているのかを知る必要がある。

そこで本調査では、**平昌パラリンピック大会の放送に関して、視聴者の視聴動向や放送がもたらした影響を明らかにする**ためのアンケート調査をNHK放送文化研究所と共同で実施した。

調査にあたって、特に障がい当事者の方々について、「**パラリンピック放送を他人事と感じているのではないか**」、「**パラリンピックの視聴態度は、障がい種別や生活の状況によって異なっているのではないか**」という問題意識のもと、障がい者と健常者の比較や、障がい種別ごとの傾向などが明らかになるよう質問項目を設計した。

## 調査対象

ジーエフケー・インサイト・ジャパンのアンケートモニターに登録し、下記に該当する人。

- **18歳以上の障がい者**：18～69歳男女で、「手帳保有」「支援サービス・給付を受けている」「通院治療中」のいずれかに当てはまる人（知的障がい者の場合は家族の代理回答も含む）。
- **18歳未満の障がい者**：18歳未満で、障がいのある子どもは、家族が代理で回答する。
- **健常者**：18歳～69歳男女で、障がい当事者ではない人（18歳以上の障がい者を持つ家族、支援者は含む）。

**サンプル数：2,275名**（障がい当事者：1275名、障がい者家族による代理回答：500名、健常者：500名）。

## 調査手法


WEB調査

## 調査期間

2018年3月20日（火）～26日（月）

# ■ 本報告の枠組

## ○ 障がい種別サンプル数（人）

 : 家族による代理回答

		障がい者	
		18～69才 (本人回答)	18才未満 (家族が代理回答)
身体障がい	視覚障がい	250	2
	聴覚障がい	150	5
	肢体不自由	500	21
	内部障がい	100	27
知的障がい		75	83
		家族の代理回答 100	
精神障がい	精神障がい	100	7
	発達障がい	100	255
合計		1,375	400

健常者		
男性	18-29歳	50
	30代	50
	40代	50
	50代	50
	60代	50
女性	18-29歳	50
	30代	50
	40代	50
	50代	50
	60代	50
合計		500

※「内部障がい」には、「音声・言語・そしゃく機能障がい」「心臓・じん臓・呼吸器機能障がい」等が含まれる。

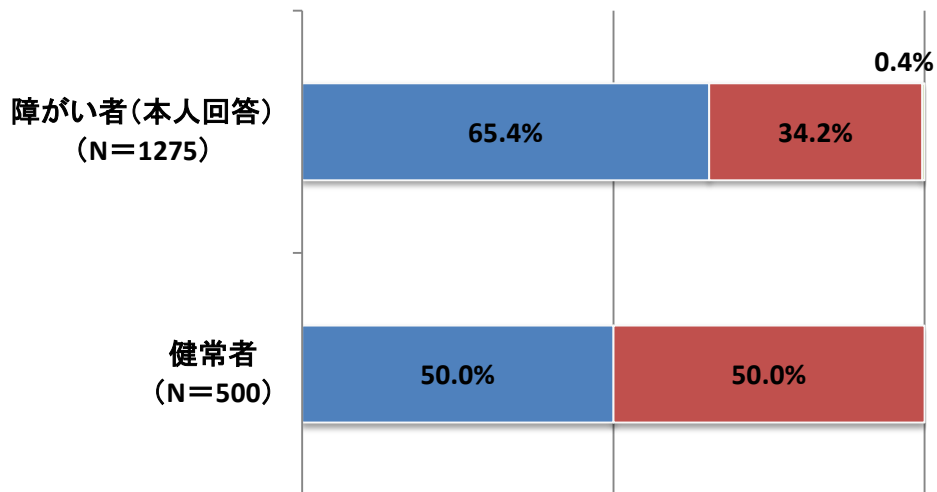
## ○ 質問項目の構成

- 対象者の属性に関する質問（セグメント作成用）：9項目
- 本質問：37項目

# ■プロフィール

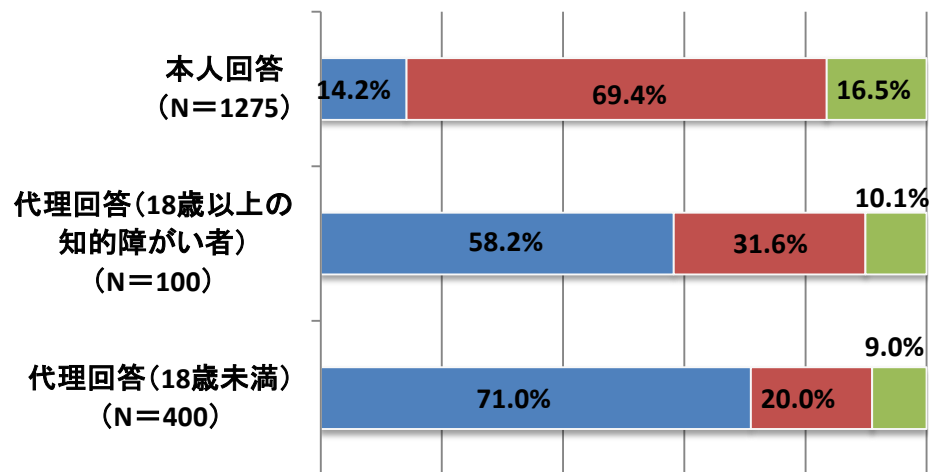
## 【性別】※本人回答のみ

■ 男性 ■ 女性 ■ その他／答えたくない



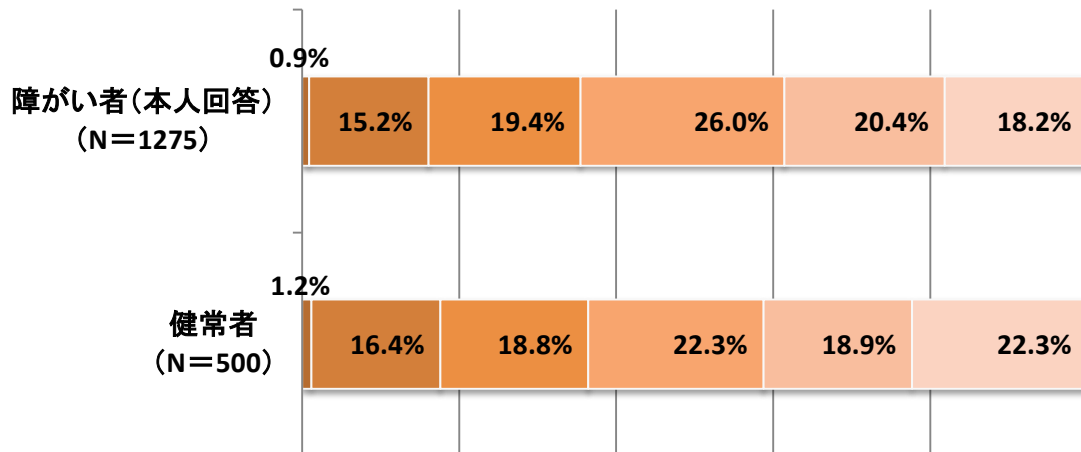
## 【発症時期】

■ 先天性 ■ 後天性 ■ 不明



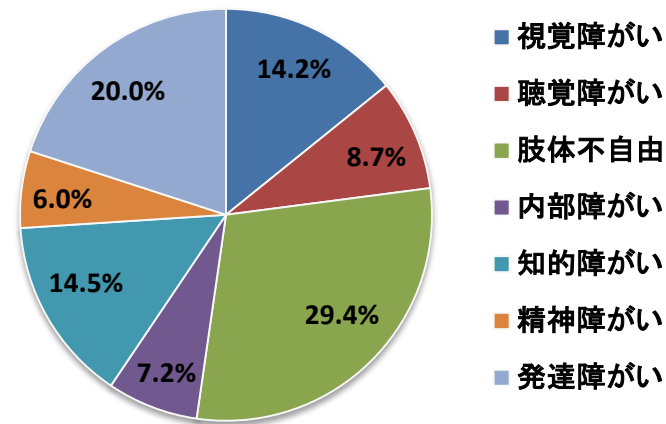
## 【年代】※本人回答のみ

■ 18～19歳 ■ 20～29歳 ■ 30～39歳 ■ 40～49歳 ■ 50～59歳 ■ 60～69歳



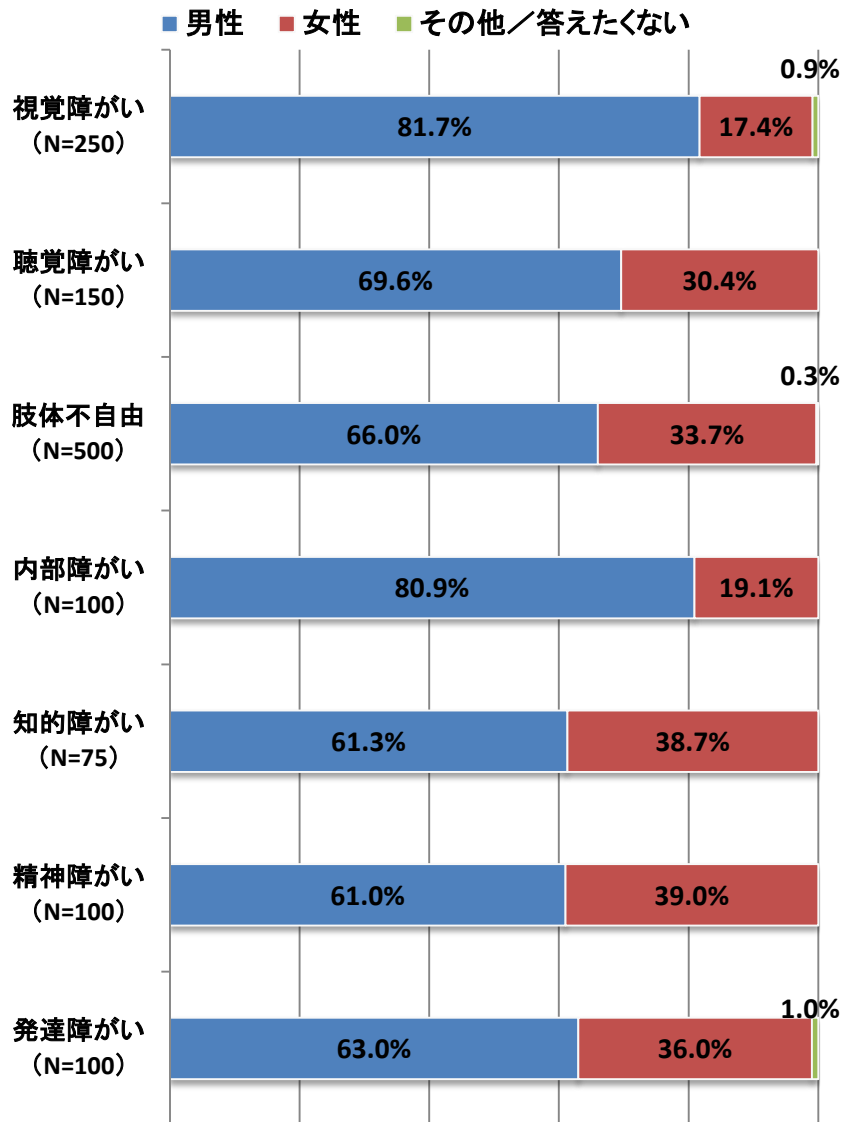
## 【障がい種別】

N=1,775

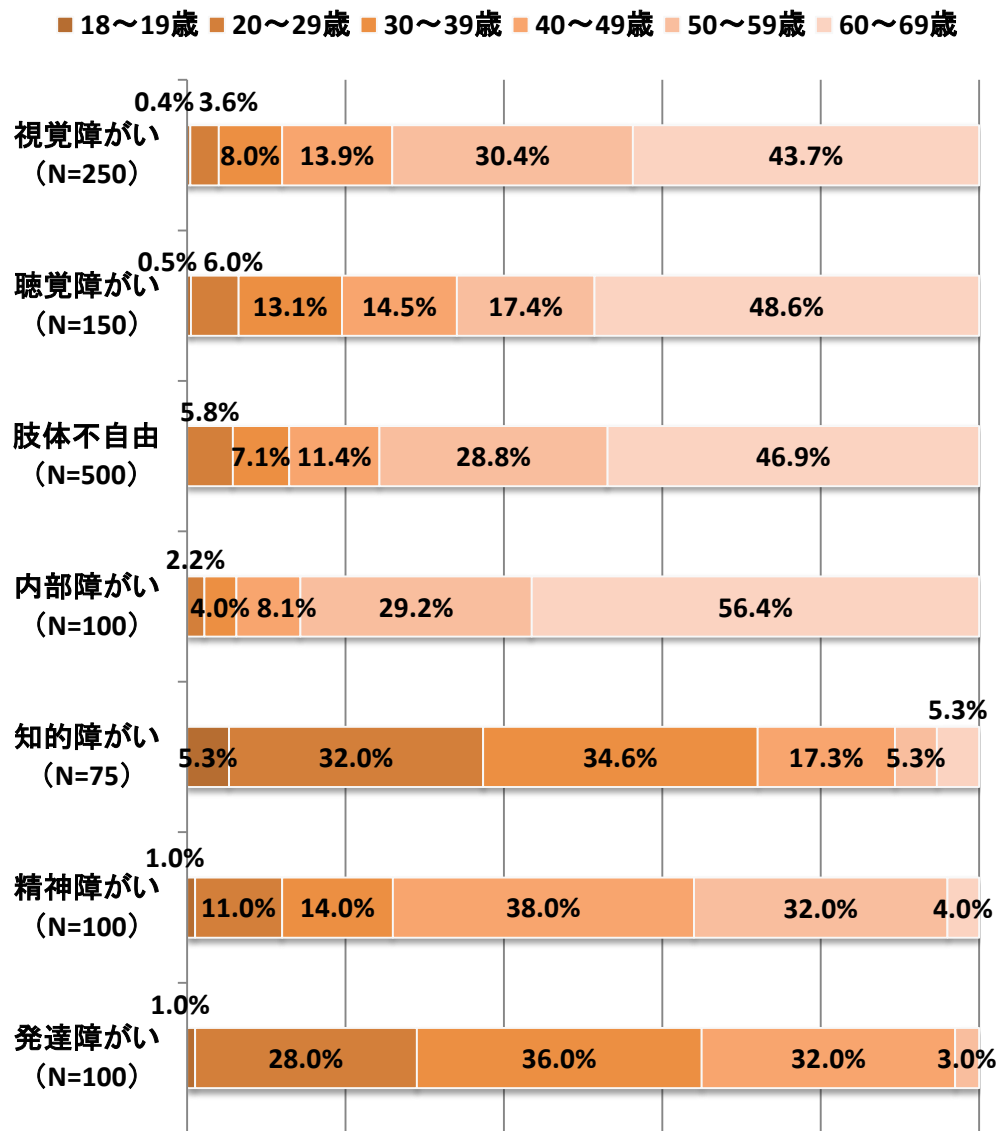


# ■プロフィール

## 【障がい種別×男女】※本人回答のみ



## 【障がい種別×年代】※本人回答のみ



# ■ ウェイトバック集計について（障がい者）

- 障がい者種別の構成比と本調査で回収した障がい者種別の構成比が異なるため、構成比が等しくなるようウェイトバック集計を行った。
- ウェイト地算出には、「平成28年版 障害者白書」と「平成18年身体障害児・者実態調査」のデータを基にした。年度が異なるため実数は使わず、比率のみ利用した。
- 身体障がいに関しては、年代別にも構成比に合わせてウェイト値を算出した。

## 【障がい別WB値】

障害者 (18歳以上)	身体障害	視覚障害	割付 (有効回答数)	今回の調査の 構成比	国の統計に 基づく構成比	WB値
		聴覚障害	250	18.2%	2.8%	0.15570738
		聴覚障害	150	10.9%	2.6%	0.23717018
		肢体不自由	500	36.4%	16.6%	0.45784157
		内部障害	100	7.3%	9.3%	1.27865663
	知的障害	知的障害	175	12.7%	11.5%	0.90505768
	精神障害	精神障害	200	14.5%	57.1%	3.92562500
		発達障害				
Total			1375	100.0%	100.0%	

さらに細かく年代別にWB算出  
(下記参照)

障害者 (18歳未満)	子ども	身体障害	55	13.8%	14.9%	1.081281244
		知的障害	83	20.8%	31.0%	1.491914706
		精神障害	262	65.5%	54.2%	0.827101569
Total			400	100.0%	100.0%	

## 【身体障がい×年代別WB値】

	視覚障害			聴覚障害				
	今回の調査の構成比	国の統計に基づく構成比	WB値	障害別×年代のWB値	今回の調査の構成比	国の統計に基づく構成比	WB値	障害別×年代のWB値
18-29歳	15.20	3.97	0.26141513	0.040704265	8.70	6.52	0.74962519	0.177788742
30代	20.40	7.95	0.38955980	0.060657336	20.00	13.04	0.65217391	0.154676206
40代	24.80	13.91	0.56077761	0.087317213	31.30	14.49	0.46302727	0.109816262
50代	22.00	30.46	1.38470801	0.215609256	22.00	17.39	0.79051383	0.18748631
60代	17.60	43.71	2.48344371	0.386690514	18.00	48.55	2.69726248	0.639710233

	肢体不自由			内部障害				
	今回の調査の構成比	国の統計に基づく構成比	WB値	障害別×年代のWB値	今回の調査の構成比	国の統計に基づく構成比	WB値	障害別×年代のWB値
18-29歳	2.60	5.74	2.20893971	1.011344421	6.00	2.22	0.36962366	0.472621739
30代	8.20	7.09	0.86519446	0.39612199	14.00	4.03	0.28801843	0.36827668
40代	22.00	11.37	0.51699427	0.236701466	21.00	8.06	0.38402458	0.491035573
50代	35.40	28.83	0.81437370	0.37285413	32.00	29.23	0.91355847	1.168127594
60代	31.80	46.96	1.47671256	0.676100395	27.00	56.45	2.09080048	2.673415899

# ■ ウェイトバック集計について（健常者）

- 健常者は「平成27年国勢調査」の性年代の構成比に合わせてウェイト値を算出した。

		今回の調査		国勢調査から	
		割付	構成比	構成比	WB値
男性	18－29歳	50	10%	9.0%	0.89736662
	30代	50	10%	9.5%	0.95318289
	40代	50	10%	11.3%	1.13211838
	50代	50	10%	9.4%	0.9434739
	60代	50	10%	10.9%	1.08527313
女性	18－29歳	50	10%	8.6%	0.86482097
	30代	50	10%	9.3%	0.92709995
	40代	50	10%	11.1%	1.10692055
	50代	50	10%	9.5%	0.94591529
	60代	50	10%	11.4%	1.14382832

## ■表の見方（調査結果）

- 表中の数値は、標本数（人）を除き全て%の数値で表している。  
（小数点以下第二位を四捨五入）（結果数値（%）は、表章単位未満を四捨五入してあるので、内訳の合計が計に一致しないこともある。
- 赤字：「障がい者（18歳以上）全体」（【本人回答 計】）に比べて有意に高い（5%水準）。
- 青字：「障がい者（18歳以上）全体」（【本人回答 計】）に比べて有意に低い（5%水準）。
- 「－」：回答なし。

## ■備考

- 本報告は、当該調査の結果について、日本財団パラリンピックサポートセンターパラリンピック研究会の視点からまとめたものである。
- 調査の特性上、サンプルがインターネットを用いて回答ができる者に限られることで、属性分布や回答傾向に影響を与えている可能性がある点に留意する必要がある。
- 「障害」の表記については、「障害」「障碍」「障がい」等があるが、質問紙における表記は、「障害者総合支援法」等の法律の表記に準じて「障害」の表記を用いている。